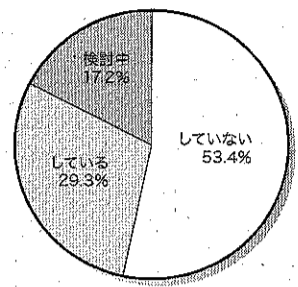


コスト削減魅力も安全性に

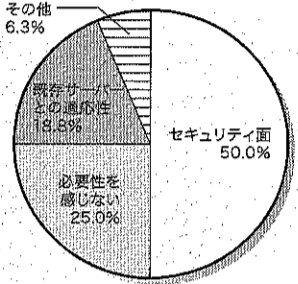
通販企業の半数が否定的

クラウドサービスとはインターネットを経由して提供されるITサービスの総称。特に、クラウド化したITリソースの使用量を業務量に応じて

クラウドサービスの導入割合



導入しない理由(複数回答)



変動でき、従量課金制で提供しているクラウドサービスはコスト削減につながりやすいとされている。一方で、セキュリティの不安などから導入に至らないケースも見られる。通販企業にとって、最も効果的なクラウドサービスの活用方法とは何か。通販企業5社にクラウドサービスを提供するアイブイピー(本社東京都)の縄谷正明社長に通販企業の導入事例を聞いた。

アンケート調査方法

調査は7月14日から8月8日の期間、37社の通販企業にアンケート用紙を送信し、58社から回答を得た。アンケートでは、通販・EC事業で運営しているシステムでクラウドサービスを導入しているかを調査した。クラウドサービスに導入している理由として、セキュリティ面が利用できる「従量課金制」「サーバーの基本使用量を業務量に応じて変動可能」の3点に全て該当するサービスを採用している。導入目的と導入している理由については、複数の回答を可とした。

クラウドサービス 提案企業／導入企業事例

サービス提案企業

フリービット

セキュリティを自社開発 進入防御機能などを搭載

システム開発のフリービット(本社東京都、石田宏樹社長)は、セキュリティ機能を強化したクラウドサービスを開発、競合との差別化を図っている。CPUやストレージなどITインフラをクラウド化するシステムに、自社開発したセキュリティ機能を搭載。クラウド化した後も、ユーザーの設定に合わせてウイルスやスパムメールが排除できる。個人情報を取り扱う通販企業に向けてサービスを提案する。セキュリティシステムの名称は「Fortigate(フォータゲート)」。同社が提供する

と魅力的に映るクラウドサービスだが、個人情報を取り扱うことが多い通販企業は、機密性の高いデータをクラウド化することに否定的な意見が自

「自社で使うセキュリティソフトや各サーバーを切り替えるスイッチなど全てをクラウド化した場合、最適化できるのか分からない」(取締役・

済み企業に聞いたところ、導入した目的の1位は「管理費削減」で41.2%。特徴的なのは、導入していない企業が懸念材料として挙げた「安全

導入した目的が「安全性」と答えた企業は、導入している企業の17.6%。ケンコーコムは運用コストの削減とリスクの分散化を目的でECの運

「クラウドサービス」VD C エンタープライズ「アームプロ」に標準搭載した。セキュリティ機能は、ネットワークやコンピュータに、ネット回線を通じて外部者が無断で侵入できないように防御するシステム「ファイアウォール」や「IPS」(進入防御システム)のほか、ウイルスやスパムメールを排除する「アンチウイルス」や「アンチスパム」が利用できる。

「セキュリティ機能が付いていない競合のサービスより月額費用が2割程度高いが、クレジットカードなど機密性の高い情報を取り扱う企業には必要がある」(クラウドインフラ営業部営業グループ・益子純一)と分析する。今後は、データのバックアップシステムを強化

サービス導入企業

コージョイコーポレーション

ECサイトをクラウド化 ITインフラ拡張し売上拡大へ

ECサイトを運営するコージョイコーポレーション(本社大阪市、高林更次社長)は、PCとモバイルの自社サイト「スターベイション」のITインフラをクラウド化する。現在、サービス提案企業を選定しており、今年9月までにインフラ環境を整え順次移行する。今春実施したセールでは、アクセスが集中したこと

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用してもセキュリティ上の不安はないだろう。アクセスの負荷がかかる時期をあらかじめ予想できれば、必要な期間だけクラウドサービスを利用すればいい。特定期間に極端なアクセスが集中するシステムを維持コストを抑えたい中小企業にとって、そのコスト削減効果は大

「これを受けて、自社サイトのITインフラをクラウド化する検討を開始。クラウド化によって、月々の基本使用量の設定を業務量に応じて変動。ITリソースを使用した分だけ支払う従量課金制のため、コスト削減につながる」と判断した。クラウドに移行後は、「セールを主婦層が注文しやすい深夜1時に集中して開催したい。それによって、バックヤード業務も効率化でき、受注した全商品を翌日出荷していく」(同)計画だ。ネット利用の快適度を改善するだけでなく、事業全体のサービスレベルの向上を図っていく。

アイブイピー 縄谷正明社長

導入事例を聞く

必要に応じて必要なだけITリソースを利用できるクラウドサービス。サーバーの購入費用や管理費削減につながりやすい一方、個人情報管理する通販企業にとってセキュリティの不安などから導入に至らないケースも見られる。通販企業にとって、最も効果的なクラウドサービスの活用方法とは何か。通販企業5社にクラウドサービスを提供するアイブイピー(本社東京都)の縄谷正明社長に通販企業の導入事例を聞いた。

中小企業でもクラウドは利用可能

EC企業5社採用 1社が検討中

クラウドサービスを利用している通販企業は2-3社のサーバーは2-3台のサーバーは年商10億円規模のEC

「約30社のECを行っている企業と契約しているが、そのうちクラウドサービスを導入している企業は5社だ。残りの企業はレンタルサーバーを利用しており、また導入に積極的とは言えない。

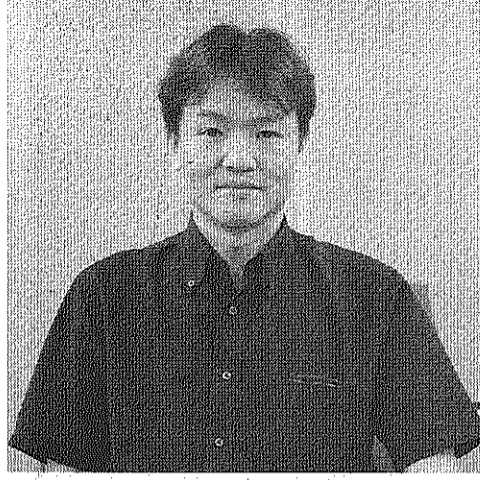
「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても



「クラウドサービスを利用している通販企業は2-3社のサーバーは2-3台のサーバーは年商10億円規模のEC

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

「個人情報を取り扱うデータベースのサーバー構築する『プライベートクラウド』を提案している。通販企業は個人情報を取り扱うことが多いので、1つのクラウド環境を複数の企業で共有する『パブリッククラウド』では、セキュリティ上の社内基準を満たせない」と考え、お客さまが多いから、ただ、「プライベートクラウド」を利用しても

出展募集

ダイレクト

インターネットビジネスと通信販